



学校だより

<http://www.sumida.ed.jp/ryogokusho/>

令和8年6月30日

墨田区立両国小学校

墨田区両国4-26-6

TEL 3634-7876



ユーカリと個別最適な学び

校長 山崎 隆

7月の最終金曜日は、絶滅危惧種であるコアラの保護と理解のために「世界コアラの日」と定められています。オーストラリアからコアラが来日して40年以上がたちますが、その歴史を紐解くと「1984年10月25日、東京都多摩動物公園他2園に各2頭ずつ到着した」とあります。当時はテレビや新聞などでも大きく取り上げられたり、コアラにちなんだ有名なお菓子が発売されたりしてちょっとしたコアラブームになった記憶があります。

コアラの主食はユーカリの葉です。多摩動物公園のユーカリ栽培担当者は、コアラはどんなユーカリでも食べるわけではなく、何百種とあるユーカリからコアラが食べる品種や一年中栽培できる品種を毎日欠かさず用意しなければならないことが本当に難しいと語っています。条件に合うユーカリを栽培できたとしても確実にコアラが食べる保証はなく、同じ品種でも畑や株ごとの違い、木の年数、コアラが好む新芽や若葉の有無などで食べる具合が変わってくるのだそうです。何よりもコアラ（多摩動物公園には現在4頭のコアラがいます）の好みもそれぞれ違い、飼育員さんがいいと思って与えても好みに合わないの見向きもしません。いったいどういうユーカリなら食べるのか、コアラたちの様子を常によく観察して、栽培に生かしているとのことでした。

学校では子供たちが毎日のように学習しています。校内を回って授業の様子を見ると、学年や学級によって様々な学習活動が行われています。自分の考えを持つ・発表する・共有するという学習ひとつとっても次のような場面があります。発問に対する自分の考えをみんなに伝える、考えをノートやワークシートに書き込んでお互いに見合いながらさらに考えを膨らませていく、タブレット端末を使って調べたりまとめたりする、調べたことや考えをタブレットで提出して電子黒板で共有するなどです。他にも、自分の決めた課題に向かって1人でじっくり学習する場面もあれば、2人以上のグループで共通の課題に向かって学習を進める場面もあります。まさに学習スタイルもコアラの好きなユーカリのように多様です。さらに学校教育においては、多様な学習スタイルを子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じて指導方法や教材、学習時間等をより柔軟に設定していこうとする流れがあります。これはいわゆる「指導の個別化」で、中央教育審議会答申「令和の日本型教育の構築を目指して」に示されています。この答申では、もう一つ「学習の個性化」も示されていますが、これは教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を設定することによって、自分の学習が最適になるように子供自身で学習の進め方を調整することです。そして、「指導の個別化」と「学習の個性化」を合わせて「個別最適な学び」となります。

話はコアラに戻りますが、新鮮なユーカリを毎日欠かさず用意しなければならないことも大変な苦勞で、動物園内だけでなく園外の専属の農家と契約して和歌山や伊豆大島、八丈島など6か所の畑で栽培したユーカリを、採る畑や品種・量などを決めて1週間単位で仕入れているそうです。担当職員は、それぞれの畑の状態を確認しながらユーカリの採取計画を組んで4頭のコアラがそれぞれ好むユーカリを一日たりとも切らさないようにしているのです。

我々教師も、子供たちの多様で個別最適な学びに応じた学習内容や方法を準備し、時間配分や学習進度などをマネジメントして、週ごとの指導計画（週案）や年間指導計画を立て、意図的・計画的な授業を展開しています。そして、子供たちの学習の状況や習熟度、学習課題やめあてなど様々な要素を踏まえて計画の確認や修正・改善を行い、カリキュラムをデザインしています。これらの取組を中心として、教育目標「進んで学ぶ子ども」が日々の子供たちの姿に表れる学校づくりをこれからも進めていきます。